スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

富山県高岡市

自 治 体 名 ： 富山県高岡市
担 当 課 名 ： 学校教育課
電 話 番 号 ： 0766-20-1480

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	210㎢
人口	161,491人
公立中学校数	12校
公立中学校生徒数	3,572人
部活動数	104部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み（令和3年度より）
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市においては、中・義務教育合わせて12の中学校を有しており、市域も広域にわたっている。他の自治体と同様に、人口減少とともに中学校等の生徒数も減少傾向にあり、令和7年度の3,572人に対し、令和12年度には3,475人に減少する見込みである。

変化が止まることのない時代にあっても夢や希望をもち、豊かにたくましく生きる児童生徒の育成を目指し、教育充実を図るため、市内全ての小中学校で小中一貫教育を推進するとともに、学校・家庭・地域が一体となり、地域ぐるみで子供たちの成長を支える高岡モデルの地域部活動の構築を目指している。

令和3年度から段階的に休日の学校部活動の地域移行に向けた実践研究を進めており、令和4年度からは、中学校11校と義務教育学校1校を対象として全市一斉展開型の地域部活動の体制づくりに取組、今年度で5年目となる。令和7年度は、16の地域クラブ活動を各種目12回程度を目安として実施、クラブの運営は、高岡市スポーツ協会傘下の各競技団体に依頼した。

これまでの取組を通じて、参加生徒数の増加や内容の充実がみられる一方で、参加者数に対して、指導者が不足している種目（競技）が多いことによる指導者の確保・育成、活動場所の確保・調整、参加生徒の中には、家庭的な事情で会費を支払うことができないケースへの対応、様々な課題がある。

高岡市生徒数変遷

（令和３年度～令和12年度）

年度	生徒数
令和３年度	3865
令和４年度	3787
令和５年度	3709
令和６年度	3651
令和７年度	3572
令和８年度	3601
令和９年度	3562
令和10年度	3548
令和11年度	3472
令和12年度	3475

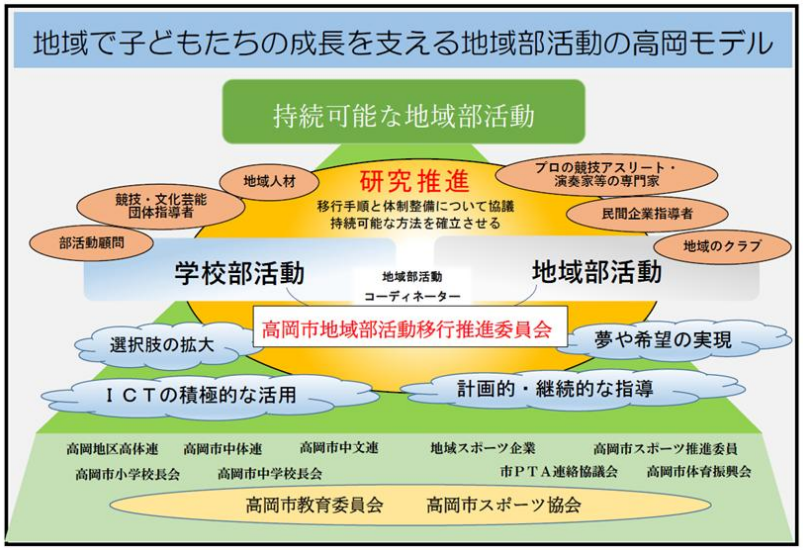
（出典　高岡市）

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会
・地域部活動移行推進委員会の運営・開催（事務局）
・各種目運営団体（競技団体）や学校、高岡市スポーツ協会等関係機関との連絡調整
・事務関係庶務
・会計管理事務
・指導者研修会の企画・運営・報告

◉首長部局
・予算執行

年間の事業スケジュール

令和7年4月	• 各学校へ地域クラブの案内 • 地域クラブの開始（～2月）
令和7年6月	• 第1回推進委員会開催
令和7年7月	• 種目運営団体からの聞き取り、調整
令和7年8月	• 市中学校長会とワーキング会議
令和7年10月	• 第2回推進委員会開催
令和7年12月	• 指導者対象研修会
令和7年12月	• 今後の活動内容調整会議(中学校長会と連携)
令和8年2月	• 第3回推進委員会
令和8年3月	• 新入生説明会等における新1年生に対する説明 • 会計状況調査 • 次年度に向けた各種案内書類の作成と配布

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	12校	実施した地域クラブ総数	16クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		0クラブ（0部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		16クラブ
全体の指導者数	74人	全体の運営スタッフ数	41人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
高岡T&Fクラブ	地域スポーツ団体	陸上競技	月1～2回（年間12回）	午前	中1　30名 中2　33名 中3　19名	4～9月	高岡市城光寺陸上競技場	16人	3人	年会費3,000円	地域クラブ
高岡市地域クラブソフトボール中学女子	地域スポーツ団体	ソフトボール	月1～3回（年間8回）	午前	中1　20名 中2　20名 中3　0名	9～2月	高岡市立志貴野中学校	2人	4人	年会費800円	大会参加なし
高岡市地域クラブソフトテニス	地域スポーツ団体	ソフトテニス	月1～2回（年間12回）	午前	中1　30名 中2　30名	6～1月	高岡市立戸出中	2人	2人	年会費1,000円	大会参加なし
高岡市地域クラブ卓球	地域スポーツ団体	卓球	月1～2回（年間12回）	午前	中1　22名 中2　18名	5～2月	高岡市戸出コミュニティセンター	8人	2人	年会費10,000円	大会参加なし

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
高岡市地域クラブサッカー	地域スポーツ団体	サッカー	月1～2回（年間12回）	午前	中1　5名 中2　4名	9～2月	高岡市立戸出中	3人	3人	年会費5,000円	大会参加なし
高岡市地域クラブバドミントン	地域スポーツ団体	バドミントン	月1～2回（年間11回）	午後	中1　15名 中2　22名 中3　2名	5～2月	高岡市立高岡西部中	2人	2人	年会費6,850円	大会参加なし
高岡市中学生バレーボールクラブ	地域スポーツ団体	バレーボール	月1～2回（年間12回）	午前または午後	中1　20名 中2　23名	9～2月	高岡市立高岡西部中ほか	3人	1人	年会費2,000円	大会参加なし
高岡市地域クラブバスケットボール	地域スポーツ団体	バスケットボール	月1～2回（年間10回）	男子：午前 女子：午後	中1　38名 中2　30名	9～1月	高岡市立高陵中、竹平記念体育館	4人	1人	年会費2,000円	大会参加なし
高岡市地域クラブハンドボール	地域スポーツ団体	ハンドボール	月3～4回（年間37回）	午前または午後	中1　3名 中2　7名 中3　4名	4～3月	高岡市立志貴野中、芳野中ほか	4人	2人	年会費12,000円	大会参加なし
高岡市地域クラブ相撲	地域スポーツ団体	相撲	月2～3回（年間12回）	午前	中3　4名	4～1月	高岡高陵高校	2人	3人	年会費12,000円	大会参加なし
高岡市地域クラブ柔道	地域スポーツ団体	柔道	月1～4回（年間39回）	午前	中1　33名 中2　20名 中3　26名	4～2月	県営高岡武道館	9人	12人	年会費4,000円	大会参加なし

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
高岡市地域クラブ剣道	地域スポーツ団体	剣道	月1～2回 （年間12回）	午前	中1　37名 中2　28名 中3　15名	4～2月	県営高岡武道館	15人	3人	年会費 2,000円	大会参加なし
高岡マット運動クラブ	地域スポーツ団体	体操・新体操	月1～3回 （年間12回）	午前	中1　4名 中2　5名 中3　4名	9～2月	高岡市立芳野中学校、塩谷建設	2人	2人	年会費 10,000円	大会参加なし
高岡市地域クラブ弓道	地域スポーツ団体	弓道	月2回 （年間12回）	午前	中1　15名 中2　23名	9～2月	高岡市立伏木中学校	2人	1人	年会費 1,000円	大会参加なし

- このほかに、水泳競技と軟式野球競技の2種目が、市の地域部活動移行推進事業に参加。水泳競技はすでに移行済みのため、実証事業としての実績なし。
- 軟式野球競技は実証事業としてのクラブ活動に参加者がなかったため、今年度は実績なし。

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 開催実績なし

2.実証内容と成果

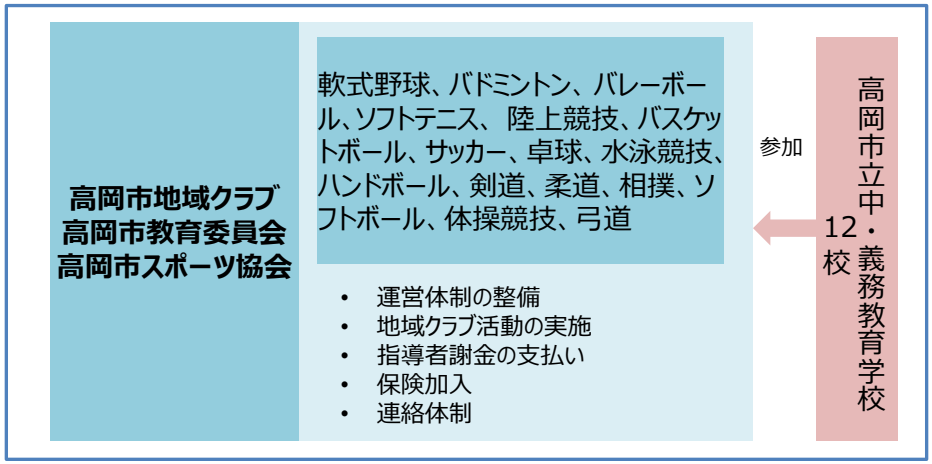
スポーツ庁

主な取組例

●高岡市地域クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	軟式野球、バドミントン、バレーボール、ソフトテニス、陸上競技、バスケットボール、サッカー、卓球、水泳競技、ハンドボール、剣道、柔道、相撲、ソフトボール、体操競技、弓道
運営団体名	高岡市地域クラブ
期間と日数	4月～2月 （各種目の実態に応じて）
指導者の主な属性	高岡市スポーツ協会傘下の各競技団体関係者、高岡市立学校教員ほか
活動場所	市内中学校、市内スポーツ施設
主な移動手段	保護者送迎、公共交通機関
1人あたりの参加会費等（年額）	種目（競技）ごとに設定 （800円～12,000円）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●各種目代表者（高岡市地域部活動推進委員）

役割：各種目のクラブ活動の企画・立案・連絡調整を行うとともに、高岡市地域部活動移行推進委員として、運営主体との連絡調整を行う。

●指導者

役割：技術面、生活面での指導に当たるとともに、会計事務や保護者との連絡等の運営の実際を担う。

●運営スタッフ

役割：指導者をサポートするとともに、会計事務や保護者との連絡等の運営の実際を担う。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○推進体制の整備

- 高岡市地域部活動移行推進委員会を年に３回開催
  地域スポーツクラブ活動を実施する上で生じる課題を把握し、解決に向けた方策を探るため、学校と行政、運営団体、地域クラブ活動指導者等の連絡調整及び情報交換を行う。
- 新たな部活動の高岡モデルの構築に関することについて、協議する。
- 地域クラブ活動を実施する中で起きたトラブルや事故に対する対応について、高岡市地域部活動移行推進委員会において共通理解を図る。
- 運営団体・実施主体の安全性確保に向けては、各競技団体と定期的に連絡調整をし、「スポーツ団体ガバナンスコード（一般スポーツ団体向け）に準拠した運営を行っているか、公正かつ適正な会計処理等を行っているかなどについて確認を行っている。

取組の成果

- 高岡市地域部活動移行推進委員会の場における各種競技団体間の情報交換を通じて、クラブ活動の運営の在り方や各競技団体の実情に応じた指導者確保の工夫等の諸課題について、意見交換し、今後の取組に生かすことができた。
- 市中学校長会とのワーキングを実施し、部活動の地域展開に加え、これからの学校部活動の在り方について検討を重ねることができた。

今後の取組における課題

- 推進委員会を3回開催し、地域クラブ活動についての成果と課題を基に、これからの地域部活動の在り方について検討を重ねているが、各競技の特性や大会の参加の仕方等の違いがあり、今後も検討を重ねる必要がある。
- 今後の学校部活動の地域展開については、回数の増加が可能か、その際には、指導者が確保できるか、必要経費はどれくらいかについて協議を重ねる必要がある。

課題への対応方針

- 県や国の動向に注視しながら、まずは休日の部活動の地域展開に向けて、推進委員会及び課題別小委員会を開催し、課題の解決方法を探る。
- 全国の先進事例を参考にし、運営団体・実施主体の体制を整備するとともに、認定クラブの立ち上げについても検討していく。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- 指導者の質の向上については、12月15日（月）に高岡市スポーツ協会と協力して、指導者講習会を開催した。

研修名	令和7年度　高岡市スポーツ少年団研修会兼 高岡市地域クラブ指導者研修会
講師	笹島　久美子　氏 高岡市きずな子ども発達支援センター　発達支援相談員
研修内容	「子どもの心と体を育むスポーツ指導」 ～信頼関係を築くための関わり方のヒント 指導者を対象に幅広い分野から青少年の健全育成に対する知識を学び、資質・能力の向上を高める。

●参加者の声

- 具体的にほめることが子どもの成長や信頼感・自己肯定感につながることを心にとめて実践していきたい。
- 事例があって分かりやすかった。
- 子どもたちとの接し方を改めて考えたい。
- ほめて育てるということが勉強になった。
- 発達障害の特性の説明があり、よかった。
- 一度に多くのことは話しても伝わらないので、まずは1つか2つ伝えるようにしたい。
- 目にみえない心の根っこを鍛えることが大切だと改めて感じた。
- 感覚の発達の順番について学べた。

取組の成果

- 指導者の確保については、各種競技団体と連携し、指導者の確保に努めた結果、複数の種目で指導者の増加がみられた。
- 競技によっては、年間の活動の中に、プロ選手を指導者として練習を行った。指導意欲の高い教員の協力を得て指導体制を整えている種目（競技）も増えている。

今後の取組における課題

- 指導者の高齢化が進み、若手指導者の発掘に苦慮している種目（競技）もある。
- 教員の兼職兼業による指導者確保に向け、校長会と連携した取組を進めていく必要がある。
- 指導者講習会については、競技者のニーズに合った内容を今後も検討していく必要がある。
- 指導者講習の内容については、指導体制や生徒の安全確保についての内容を含んだものも検討していきたい。

課題への対応方針

- 指導者の確保については、高岡市スポーツ協会と協力し、スポーツ少年団と連携をした指導も検討する。
- 指導者研修会については、スポーツ協会や各競技団体による研修もあり、実施の在り方や内容については、関係機関と調整を図っていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 高岡市地域部活動推進委員会を年に3回開催し、各地域クラブの活動についての成果と課題について情報共有を行う。
- また、今後の休日の部活動の地域展開に向けて、本市ならではの取
- 組をどのように進めていけばよいか協議する。
- 市中学校長会と地域部活動についてワーキング会議を2回実施
- 各競技団体の事務局との連絡・調整

今後の取組における課題

- 各種競技団体間の情報交換を行ったが、今後の休日における部活動の地域展開に向けての具体的な運営及び課題解決については、今後も協議を重ねていく必要がある。

取組の成果

- 高岡市中学校体育連盟や校長会、各競技団体、スポーツ協会等の協力を得て、休日の活動機会や活動場所の確保ならびに専門性の高い指導の充実に向けて、進めることができた。
- 校長会との地域部活動のワーキング会議では、現在の学校部活動の状況と合わせながら、今後の部活動の在り方について意見を交換することができた。

課題への対応方針

- 指導者の確保については、より専門的な指導の充実も踏まえて、地元プロスポーツチームや実業団チーム、アマチュアチーム等の連携の在り方について検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実

取組事項

- 各種目（競技）の実績に応じて、練習形態や活動内容に工夫をしている。（レベル別練習、試合形式練習等）
- 競技によっては、プロ選手を指導者として練習を行う。
- 教員が兼務できる体制（兼職兼業願を提出し、指導者として登録）を
- 整備する。

取組の成果

- 他校の生徒と一緒に活動することで、交流の機会が増え、生徒の意欲喚起や技術の向上がみられる。
- 参加人数が増え、選手、指導者が互いに刺激を受ける質の高い練習の場となっている。
- 競技によっては、中学校から競技を始めた選手にも技術指導ができる場となった。
- 参加している生徒の活動意欲は高く、充実した練習につながっている。

今後の取組における課題

- 個人競技には比較的スムーズに活動できている種目（競技）が多い一方、団体競技は種目（競技）ごとの参加人数が多く練習場所の確保や用具の準備等の課題がある。
- 種目によっては、参加人数が多く、活動場所の確保や活動内容の工夫が必要である。

課題への対応方針

- 現在、1種目（競技）あたり1地域クラブの実施であるが、大会参加も踏まえて、認定クラブの設定や基準について検討を重ねていく。
- 令和７年度は、年に１２回程度の活動であったが、今後は、回数の増加が可能かどうかを検討し、休日の地域展開の推進を図る。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- 各種目（競技）の実情に合わせて参加費を設定し、各競技の実施要項に記載し、保護者や生徒に周知している。
- 保険については、受益者負担としている。

今後の取組における課題

- 種目それぞれの実態を踏まえた参加費の設定（保護者負担）については、検討を重ねていく必要がある。

取組の成果

- それぞれの種目（競技）に応じた参加費については、前年度通りに行った。
- どの競技も、年間の回数に応じた適切な金額を設定することができた。

課題への対応方針

- 今後は、国の動向に注視し、経済的困窮世帯への減免措置等を含め、受益者負担額について検討していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等

収支バランス

収入内訳･･･参加費
支出内訳･･･生徒保険料、会場費、消耗品費等

持続可能な運営に必要な受益者負担額の試算

考えられる支出
- 指導者謝金　1,843,200円（1時間あたり1,600円×3時間×12回×16クラブ×2名）
- 指導者保険料　59,200円(1,850円×16クラブ×2名)
- 会場使用料　100,000円
- 消耗品費　800,000円
- 謝金　50,000円
- 交通費　40,000円
- 参加人数　800名
- 一人当たり　3,600円程度（ただし、保険料は含まない）

●収入

項目	費用	割合
公費	1,531,220円	48%
事務局運営費	1,641,900円	52%
合計	3,173,120円	—

●支出

項目		費用	割合
地域クラブ活動費		3,063,450円	97%
	諸謝金（指導者）	1,484,800円	–
	会場使用料	100,000円	–
	消耗品費	800,000円	—
	印刷製本費	0円	—
	携帯電話レンタル料	0円	—
	雑役務	0円	—
	生徒保険料	640,000円	—
	指導者保険料	38,650円	—
事務局運営費		109,670円	3%
	謝金	12,000円	—
	会場使用料	7,770円	—
	スポーツ教室開催費	0円	—
	保険料	0円	—
	人件費	0円	—
	交通費	40,000円	—
	印刷製本費	42,615円	—
	消耗品費	0円	—
	備品購入	0円	—
	通信運搬費	0円	—
	会議費	7,285円	—
	振込手数料	0円	—
	一般管理費	0円	—
	消費税相当額	0円	—
合計		3,173,120円	—

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

- 活動にあたっては、高岡市内の公的施設や学校施設を活用することとし、持続可能な体制づくりを目指す。
- 下記のルールを設定し、学校施設での活動の推進を図った。

○ 中学校の体育館使用は、地域クラブの活動を優先する。
○ 地域クラブが実施される日は、当該種目（競技）の学校部活動は行わない。

・ 学校体育館に予約システムと連動したスマートロックを導入した。

今後の取組における課題

- 各種目（競技）が希望する会場が、市内中心部の中学校に集中し、当該の中学校の負担となっている。
- 体操等、特殊な設備を必要とする競技においては、使用できる中学校体育館が限られている。

・ 屋外競技については、雨天時の活動場所の確保が難しい。

取組の成果

- 各種目の地域クラブにおいては、会場使用料や設備利用料の面での金銭的な負担や会場確保に係る人的負担が解消されるといった成果がみられた。
- 学校部活動の顧問にとって、休日の部活動にかかる負担が軽減された。
- 用具等の保管スペースの確保等については、学校開放スペースを活用したり、学校と連絡調整を図ったりして対応した。

課題への対応方針

学校施設の使用や会場確保に当たっては、各種目（競技）の利用希望を早い段階で集約し、市教育委員会が中心となって調整を図る。
一部の学校に利用が偏ることがないように、年間の活用時期や活用回数について調整を図る。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

高岡市においては、変化が止まることのない時代にあっても夢や希望をもち、豊かにたくましく生きる児童生徒の育成を目指し、教育充実を図るため、市内全ての小中学校で小中一貫教育を推進するとともに、学校・家庭・地域が一体となり、地域ぐるみで子供たちの成長を支える高岡モデルの地域部活動の構築を目指している。

令和3年度から段階的に休日の学校部活動の地域移行に向けた実践研究を進めており、令和4年度からは、中学校11校と義務教育学校1校を対象として全市一斉展開型の地域部活動の体制づくりに取組、今年度で5年目となる。

令和7年度は、16の地域クラブ活動を各種目12回程度を目安として実施、クラブの運営は、高岡市スポーツ協会傘下の各競技団体に依頼している。

これまでの取組を通じて、参加生徒数の増加や内容の充実がみられる一方で、参加者数に対して、指導者が不足している種目（競技）が多いことによる指導者の確保・育成、活動場所の確保・調整、参加生徒の中には、家庭的な事情で会費を支払うことができないケースへの対応、様々な課題がある。

●成果の評価

各種目（競技）ごとの活動内容や指導者確保の点については、運営団体の工夫や地域部活動移行推進委員会での意見交換により、充実がみられる。参加生徒の活動意欲も高まってきている。

しかしながら、少子化の進展に伴い、学校部活動単独ではチームが組めない種目（競技）が増えたり、大会参加ができなかったりすることもある。部活動の地域展開にあわせ、学校部活動の在り方についても見直し、改善が必要である。

●今後に向けて

今後も引き続き、全市一斉展開型の地域展開の在り方について、市校長会や市中学校体育連盟等関係機関や競技団体との連携を深め、中学生のスポーツ活動の充実を目指した地域ぐるみの体制づくりに取組む。

新たに考えられる課題について、関係機関の協力を得ながら解決に向けた取組みを推進するとともに、国や県の動向に注視しながら、子どもたちの豊かで幅広い活動機会の保障を目指して、スポーツ活動を地域全体で関係者が連携して支えていきたい。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

参考資料



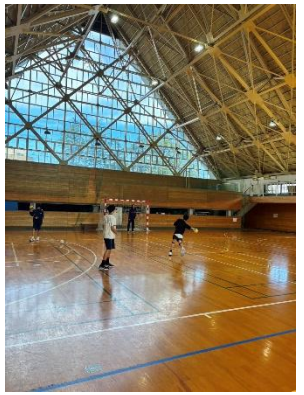
【剣道】



【卓球】



【柔道】



【ハンドボール】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和3年

高岡市地域部活動移行推進委員会設置、検討開始

▶

運動競技11種目における受け皿団体や指導者の選定と試行

▶

令和4年

「地域部活動コーディネーター」の設置

▶

運動競技3種目を追加し、14種目のクラブで実施

▶

令和5年

運動競技1種目を追加し、15種目のクラブで実施

▶

令和6年・7年

運動競技1種目を追加し、16のクラブで実施

ステークホルダー

市教育委員会、市スポーツ協会、各競技団体、プロスポーツ運営会社、中体連、校長会　ほか

経過

令和3年5月に、高岡市地域部活動移行推進協議会を立ち上げ、休日の活動機会や活動場所、専門的な技術指導を受けることができる場の確保を目指す、高岡ならではの地域部活動の在り方について検討を開始した。令和5年には、意欲のある教員等の協力の下、立ち上げが遅れていた種目のうち4種目で、さらに令和6年度より、残りの1種目で指導体制を整備し、16種目で実証事業を進めている。

実施内容

市内12中学校に設置されている16種目すべてのクラブが設置され、それぞれの種目ごとに活動日程を設定の上、実施している。

実施にあたって生じた課題

休日のクラブ活動において、活動場所の予約や鍵の貸出に対する指導者の負担が大きいことが指摘された。令和7年度から、全中学校で導入されるオンライン予約システムとスマートロックを活用し、学校の負担がなくなった。

少子化の進展に伴い学校部活動単独ではチームを組むことができない種目（競技）が目立つようになっている。各学校においては、学校部活動の在り方について検討を重ねる必要がある。

今後の展開

今後も引き続き、全市一斉展開型の地域移行・地域展開の在り方について、市校長会や市中体連、市スポーツ協会、市内各競技団体をはじめとした関係機関との連携を深め、中学生の競技力の向上及び活動機会の保障を目指した地域ぐるみの体制の推進に取組む。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

